



医師紹介



整形外科 医長 若松 透

卒業年：平成17年卒
診療科：整形外科、専門分野：一般整形・腫瘍

平成28年10月より神戸掖済会病院の整形外科で勤務させて頂いていただいています若松と申します。これまでの経歴ですが、まず兵庫県立西宮病院で初期臨床研修を行いました。次に、大阪大学整形外科に入局し大阪医療センター、市立伊丹病院整形外科で後期研修を行いました。その後大学院に進学し主に肉腫の治療について研究を行ってまいりました。卒業後は将来的に研究も行いたいという思いから、医局にお願いし2年間留学させて頂いていただきました。留学先は米国「New YorkのMemorial Sloan Ketrting Cancer Center」で

事がそれなりに滑り出したと思っております。ただ、やはりブランクは大きくまだまだ十分に出来ないなど感じることも多く引き締めている毎日です。

自分は大阪大学に入学してからラグビーを始めました。中高生の頃は全く運動などしておらず非常に練習、試合ともに辛かったことを記憶しています。しかしながらそれ以上に楽しいことが多く、多くの戦友ができましたし、様々な病院でラグビーをしていたという先生方とすぐに共通の話ができ嬉しいことも多いです。自分が留学前はラグビーは他の球技に比べて人気がなく世間的にも認知度が低かったように思います。しかしここ2、3年、ワールドカップで南アフリカに、オリンピックのセブンスでニュージーランドに劇的な勝利を収め、次回日本で開催予定のワールドカップに向けて徐々に人気が出てきているように思います。そのような感動する試合を観ると自分でも試合に出たくなるもので、毎年10月頃に行われる母校のOB戦に向けてまず米国の高カローリー食でたるんでしまった体を鍛え直しているところですが、まずそれなりに動けるようになり、娘2人にラグビーもするのだと認知してもらえらることを目標にしております。これからも将来的な目標を見据えながら、心身ともに健康な状態で日々医療に取り組みたいこうと思えます。

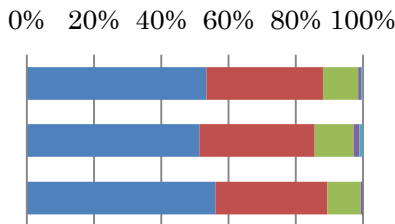


平成28年10月入院患者様アンケートの結果

この度の調査実施に当たり、多くの患者様にご協力いただき大変感謝しております。満足度89・4%の評価をいただいた事をうれしく思います。今回、満足いただけなかった患者様にも身体のみならず心も癒されたと感じていただけたような環境作りを目指し、患者様からのご意見ご指摘ご要望を謙虚に受け止め、今後のさらなる接遇の向上、発展を目指したいと思えます。

ご協力ありがとうございました

■ 5:是非すすめたい
■ 4:まあすすめたい



今後も入院が必要となった場合は当院でしたいと思われますか？

評価	H26.10(前々回)		H27.10(前回)		H28.10(今回)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
5:是非すすめたい	113	53.6%	97	51.3%	96	56.1%
4:まあすすめたい	73	34.6%	65	34.4%	57	33.3%
3:どちらともいえない	22	10.4%	22	11.6%	17	9.9%
2:余りすすめたくない	2	0.9%	3	1.6%	1	0.6%
1:全くすすめたくない	1	0.5%	2	1.1%	0	0.0%
合計	211	100.0%	189	100.0%	171	100.0%



研修医 悠記 下村

年が明けて、あと1か月余りで研修医生活も終わりを迎えようとしています。この2年間、様々な科（内科・循環器科・脳外科・救急・麻酔科・精神・地域医療など）で研修させていただきました。これの科においても大変貴重な経験ができました。

2年前の春、何もかもが初めてであり、慣れる事で一杯で、自分の無力さを痛感しました。そして、指導医の先生方、コメディカルスタッフの皆様に助けられ、支えられ、時にはお叱りをうける毎日でした。また、なにもできない私たち研修医に対して、診察、問診と嫌な顔せず、ひとりの医師として接してくださった患者様から多くを学ばせていただきました。その中で、自分のできる範囲も広がっていき、少しずつではありますが成長を実感できるよ

うになりました。研修中には、一般的な治療や手技から医師としての心構えまで様々なことを教えていただきました。その中でも、神戸掖済会病院の先生方と共通している点として、どの科に行った際にも、治療は医学的な側面だけでなく、患者様の背景を第一に考え、社会的側面からもその方にとって一番の治療はなにか、一番幸せな選択はなにかを常に考えるようにと教えていただいたのが印象的です。

現在は、救急科で研修をさせて頂いており、救急外来での初療から入院治療、退院に至るまで経験させて頂いており、日々医療の難しさと奥深さを痛感しております。また、高齢化に伴い、複数の病気をかかえておられる方が多く、幅広い知識が必要であると実感すると同時に、医師として専門的な知識も身に付けたいと思うようになりました。

このように充実した研修が出来たのもひとえに指導医の先生方、コメディカルのスタッフの皆さん、患者様の協力が合つてこそだと深く感謝しています。また、同期の研修医にも恵まれ、落ち込んだときや大変なときに励まし合つて研修を乗り越えることが出来ました。来年からは腎臓内科を専門分野として勉強をしていく予定です。この2年間で学んだことを糧に、最善の治療ができるように、さらなる研鑽を積み精進していきます。

研修医より 今まで ありがとう ございました！



研修医 祐介 神保

平成27年に徳島大学を卒業して神戸掖済会病院に初期研修医として入職致しました神保祐介と申します。神戸掖済会病院での研修期間も残り少なくな

り、これまでの研修をいろいろと思い返してみると2年間の研修は本当に短いものであり、また感慨深いものであったと感じます。また同時に研修中に経験した様々な失敗や後悔が頭をよぎり、時期に研修が終わってしまうことが心配でもあります。

先日、書籍や書類、文具などの私物で散らかったデスクを片付けていると、あるファイルが目に残りました。そのファイルは私が研修医になりたての頃から、指導医の先生方からレクチャーを受けた際のメモ書きをまとめたものでした。心電図の見方、輸液の方法、CVカテーター挿入の手順など研修医として身に付けておかなければならない様々な項目が書かれていました。

当時は自身の勉強不足もあり、教えて頂いたことを直ぐには理解できず教科書を何度も見返しながら、何とかメモの内容を頭に入れていました。今でも久しぶりに目を通す項目は思い出すのに時間がかかる事もあります。しかしながら、これまでの研修を通じて学び、実際の診療を経験しながら、その大部分が当然のように身に付いて、実践されるようになっていきました。

この4月からは新たに後期研修がスタートしますが、専攻医として少しでも医療の現場で貢献できるように、また今後は私が後輩となる研修医の先生方にしつかりと指導できるように、より一層研鑽を積んでいきたいと考えています。最後になりますが、この文面をお借りして大変お世話になりました神戸掖済会病院の先生方、職員の方々、治療に携わらせて頂きました患者様に心より御礼を申しあげます。



研修医 益美 平尾

2年間の研修が終わりに近づいている現在、まだまだ医師として未熟でご指導下さっている先生やコメディカルの方々には迷惑をかけたばかりで、4月から一人前の医師として働くことに少し不安を感じている日々です。

私が当院を選んだきっかけは、同じ志望をもった女性研修医が多かったこと、また9ヶ月間科を自由に選べることでした。実際の研修生活では、上級医の先生方にはとても手厚く指導していただき、また同期で取り合いにならず手技などたくさん経験できました。実際に患者様を受け持ち、患者様自身や患者家族様を通して様々な人生を垣間み自身を考えさせられたこと、患者様から学ぶことも多々ありました。私の性格上、大病院や大きな病院だと何もできずに2年間が終わってしまいうなので、当院の研修体制は私にぴったりだったと思います。時には出来ない自分が嫌になり「進む道を間違えたな」と思うこともありましたが、いつも私側で意見を言ってくれてくれた同期に感謝しています。

私は4月から神戸大学乳癌外科に入局します。まず外科の基本から学び、上級医の先生方と上手に仕事していくように、この2年間の研修を糧にして頑張ります。

最後になりましたが、大鶴先生をはじめ外科の先生方には私の我儘ばかりきいていただき大変ご迷惑をおかけしました。また熱心に指導していただき本当に本当にお世話になりました。ならびに残り3ヶ月間温かく受け入れてくださった仙波先生、各科の先生方、地域の先生方、研修医担当、病院スタッフの方々、そして患者様とご家族様、至らない点が多々あったかと思いますが本当にありがとうございました。



メディカルラリー



メディカルラリーとは、医療チームが特殊メイクを施した模擬患者を診察して、限られた時間内に限られた資機材を使用し、どれだけの確に診断と治療を実施することができるかを競う技能コンテストです。メディカルラリーは、医師2名・看護師2名・救急救命士2名でチーム構成され、各シナリオステーションで出動指令に従い指定された場所へチームで出動します。そして、そこにいる模擬患者さんに対してトリアージしながら観察や診察を行い、迅速に的確な救急処置を行います。その処置や治療が正しいか減点方式で点数として評価され、その総合得点で順位を競います。

私たちは、2015年12月13日に近畿大学医学部附属病院で開催された「第1回 南大阪メディカルラリー」に参加させていただきました。当院から医師2名・看護師2名、垂水消防署の救命士2名で構成された、「KT Sailor's」というチームで参加しました。このチームメンバーの中で、ラリーの経験者は1名でした。そのため、院内で机上トレーニングやトリアージタグ使用した練習、JPTEC・MCLSなど基礎知識の確認、また垂水消防署をお借りしての実技訓練や救急車同乗実習をさせていただくなど、チーム結成から一丸となってトレーニングを重ねてチームワークを得ることが出来ました。

当日は天候にも恵まれ、12月なのに寒さを感じることなくラリーに臨むことが出来ました。今回のラリーは、関西を中心に各地から10チームが参加されていました。名だたる施設からの参加が多く、初出場の私たちチームはラリー開始前から緊張が隠せませんでした。しかし、チームワークの良さやタイトな時間設定であったので次々に場所を移動しながら各シナリオに挑まなければならないため、すぐに緊張は解けてシナリオに入り込むことが出来ました。そして、あっという間に6シナリオとスペシャルステージの7か所での熱戦が終了しました。結果は、10チーム中4位！そして、スペシャルステージでは最優秀賞を頂くことが出来ました！！スペシャルステージは、CPRメーターを用いたBLSリレー大会でした。「リズム・深さ・リコイル・位置・中断時間を短く」といかに有効な胸骨圧迫が実施されていたか、BVMによる換気が適切であったかが評価されました。日頃から、ICLSコースのインストラクターとして活動しているメンバーが多かったので、ここで成果が出せたのではないのでしょうか？

当院は、二次救急病院でドクターカーもありません。しかし、今回のラリーに参加させていただき、たくさんの学びや気付きを得ることが出来ました。そして、医療現場における多職種のチームワークが診断・治療に影響してくることや、プレホスピタルにおける救命士による救護活動の難しさを改めて実感しました。日ごろから救命士の方々と顔が見える関係を築くことで、プレホスピタルからインホスピタルへのスムーズな情報共有や治療開始ができることも感じました。この貴重な経験を生かし当院が地域医療でどのような役割を担っているのか、また看護師としてどのような看護が必要なのか常に考えていきたいと思えます。

ICU・救急看護認定看護師 立助恵子



△▽△▽△▽△▽△▽病院周辺の落ち葉清掃△▽△▽△▽△▽△▽

当院は垂水区の丘陵地に立地しており、大変緑豊かな環境にあります。そのため、毎年晩秋、落ち葉の季節になると、病院玄関前の歩道周りには大量の落ち葉が集積、乱舞する状況となります。

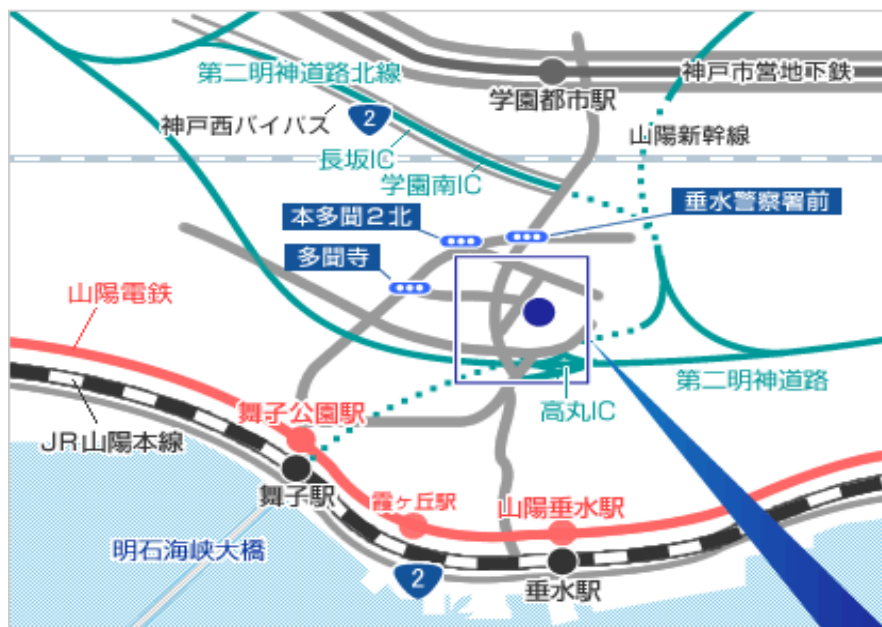
ご近所のボランティアによる清掃も行われていますが、かなり目立っていましたので、11月下旬の始業前30分程度、事務部有志にて落ち葉清掃を行い、45ℓのごみ袋20数袋分を回収しました。

会社や病院周辺の枯れ葉掃除をしてくれるサービス業者も探せばあるようですが、自分達が働く場所の敷地や周辺くらいは自分達で掃除していきたいものです。

今後は年に数回、落ち葉のみならず、このような清掃活動呼びかけ、皆様方に少しでも気持ちよく来院していただけるよう、環境美化に取り組んでいきたいと思えます。

事務部長 小倉 与志広





周辺図 ▶



【地下鉄学園都市駅から】山陽バス・神戸市バス 約 12 分

【地下鉄名谷から】山陽バス 約 20 分

【JR 垂水駅から】山陽バス・神戸市バス 約 20 分



〒 655-0004
 神戸市垂水区学が丘 1 丁目 21 番 1 号
 TEL : 078-781-7811 (代表)
 FAX : 078-781-1511
<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp>